
アルテック「分子間相互作用解析装置」の製造・販売を開始

アルテック株式会社（東京都新宿区 代表取締役社長 加畑 洋）は、フィンランド国立研究所 VTT の技術をベースにし、表面プラズモン共鳴を利用した「分子間相互作用解析装置」（以下、商品名 SPR-Navi という）の販売を行う。尚、SPR-Navi の開発製造はアルテック株式会社がフィンランドヘルシンキに共同出資しているバイオナビス社（フィンランドヘルシンキ 社長 サドースキー博士）が行う。

フィンランド国立研究所 VTT バイオセンサーグループの主任研究員で開発者であったバイオナビス社社長のサドースキー博士は、世界で初めて表面プラズモン共鳴の原理を分子間相互作用の解析に応用したウルフ・ジョンソン博士をバイオナビス社の技術アドバイザーに迎え、技術エキスパートである 2 人のコラボレーションにより、装置の技術開発を行った。アプリケーションはプロテオミクスにおけるたんぱく質間の相互作用や抗原抗体反応、食品成分や環境汚染物質などの検知定量、ガス分子の吸着等がある。SPR-Navi は、試料のつまりが常に問題となるフローセル部を脱着式にして洗浄を容易にするなど、ユーザーの観点からみた使いやすさに重点をおき設計されている。又、共鳴角度が 40～75 度（屈折率 1.0～1.45）に対応し、液相だけではなく気相でも使用する事ができる為、ガス分子の吸着の解析にも応用する事ができる。

SPR-Navi の販売は 2008 年 7 月より全世界に向かって行う。国内販売はアルテックが行い、その他の欧米やアジアへの販売はフィンランドの理化学機器メーカーであるケーエスヴィ社が中心となって行っていく予定で、既にイタリアやフィンランドなどの研究機関から受注し、好調なスタートを切っている。国内での販売価格は 550 万円で、初年度は国内で年間約 20 台、世界で約 100 台を見込んでいる。

又、SPR-Navi で使用される金蒸着ガラス基板の表面修飾に有用なチオール試薬の販売も同時に開始し、すでに大学や国研などの研究機関を中心に受注しはじめている。チオール試薬は、ポーランドプロキミア社のもので、官能基の種類が豊富で、低価格という特徴がある。糖鎖研究で著名な鹿児島大学隅田教授が設立した会社である株式会社スティックスバイオテックとも協力し、スティックス社製の糖鎖を固定化したチップ（商品名シュガーチップ）の販売も行っていく。

【IR に関するお問い合わせ】

アルテック株式会社
経営企画室 星野幸広
電話：03-5363-0922

【製品に関するお問い合わせ】

アルテック株式会社
ナノソリューション事業部 佐藤博
電話：03-5363-3005